

# 知財部門のAI活用：3つのアプローチ徹底比較

2025年 知財AI活用「元年」。3つの主要ルートの詳細に分析。

## Manus (汎用AIエージェント)



自律的にウェブ閲覧やファイル生成を行う万能型。技術動向の広範な調査には強いが、専門DBとの連携やセキュリティに課題がある。

## Claude Code (カスタム開発プラットフォーム)



Anthropic社のコーディング特化型AI。NECが先行技術調査時間を93.5%削減したように、自社専用の高度な知財DX基盤を構築可能。

## 知財特化型AIツール (国産・海外SaaS)



PatentfieldやAI Samuraiなど。日本の出願実務やJ-PlatPatデータに最適化されており、導入当日から専門的な解析や明細書作成支援が可能。

## 7つの軸による徹底比較

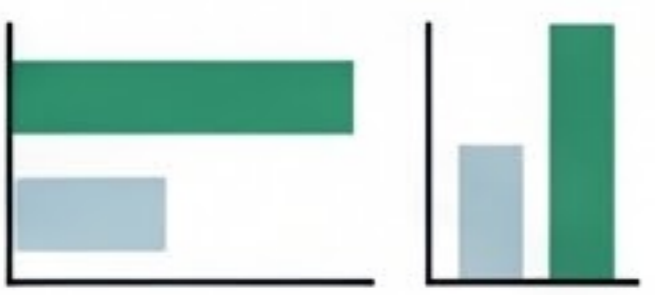


### 即効性と導入の容易さ

知財特化型ツールが圧倒的に優位。ブラウザベースで即日納品可能。対してClaude Codeは構築に数週間の期間を要する。



特化型ツール  
Claude Code



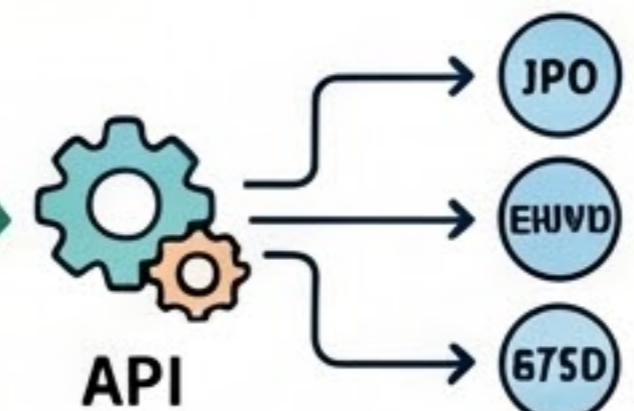
### セキュリティと機密性

Claude CodeはAWS Bedrock等を経由したセキュアな運用が可能。Manusはリプレイシステムによる記録仕様から、出願前情報の入力には不向き。



### カスタマイズ性と拡張性

Claude Codeが深み。自社独自のワークフローやAPI連携 (JPO, USPTO等) を自在に構築できる。



主要な知財特化型AIツールの機能とコストを比較する。

ツール名	特許調査	明細書作成	日本語対応	月額目安
Patentfield AIR	◎	△	ネイティブ	2万~10万円
AI Samurai	◎	◎	ネイティブ	要問合せ
Genzo AI	○	◎	ネイティブ	8万~125万円
Tokkyo.Ai	○	○	ネイティブ	1.5万円~
PatSnap Eureka	◎	○	対応	エンタープライズ

## 部門規模別の最適戦略ロードマップ



小規模部門 (1~5名) : 即効性優先  
Tokkyo.AI等の安価なSaaSを即時導入し、  
調書業務を効率化。  
予算目安は年50万~150万円。



中規模部門 (5~20名) : ハイブリッド型  
特化型ツール (Genzo AI等) でコア業務を固めつつ、  
Claude Codeで自社専用ダッシュボードを構築。  
予算目安は年300万~1,500万円。



大規模部門 (20名以上) : プラットフォーム構築  
Claude Codeを基に自社IP DX基盤を構築。高品質な  
海外DB (Derwent等) をAPI統合し、ROIを最大化。  
予算目安は年2,000万円~。

## 導入時の重要 チェックポイント



ハルシネーション (幻覚) のリスク  
法律特化型AIでも17~33%の誤回答が発生  
する研究もあり、AIの回答を鵜呑みにせず  
人間による検証が不可欠。



2029年 J-PlatPatの大幅刷新  
特許庁による検索上限の拡大 (3万件) やAI検索支援  
の導入が予定されており、外部ツールとの連携環  
境がさらに整備される。



セキュリティ三原則の策定  
①入力データの範囲明文化、②学習オプ  
アウトの確認、③機密レベル別の使い分け、  
の3点を導入の前条件とする。